UP DATE

■ JSTT委員会活動

（1）機関誌「No-Dig Today」編集委員会，編集企画小委員会

【第104回編集委員会】

10月12日（木）編集委員会を開催いたしました。機関誌「No-Dig Today」101号（平成29年10月1日発行）の完成状況について確認しました。また，102号（平成30年1月1日発行）の掲載内容及び執筆依頼の状況について企画通りの進捗状況を確認しました。

【第135回編集企画小委員会】

10月12日（木）編集企画小委員会を開催いたしました。機関誌「No-Dig Today」101号（平成29年10月1日発行）の完成状況を確認するとともに102号の特集の執筆依頼先や写真速報や国内イベント報告などコンテンツについて承認されました。

【第136回編集企画小委員会】

11月30日（木）編集企画小委員会を開催しました。102号の入稿状況を確認するとともに表紙の確認を行いました。合わせて，103号の特集の執筆検討依頼先について確認しました。

（2）地下探査技術委員会

【第25回地下探査技術委員会】

9月29日（金）地下探査委員会を開催しました。工法ナビゲーションシステムへの掲載，第1回非開削技術講演会（東京）のアンケート結果や地下探査技術者研修の在り方について論議しました。

■ 非開削技術研究発表会

10月18日（水）発明会館地下ホールにて非開削技術研究発表会を開催しました。発表は6セッションで20本がエントリーされました。あわせて元ISTT会長のレイモンド・スターリン氏（ルイジアナ州立大学名誉教授）による特別講演を実施しました。スターリン氏は日本の大学の招聘により来日したもので，スケジュール調整が整い実現することができました。

今年度も継続学習制度のCPD（土木学会），CPDS（全国施工管理技士会連合会）の認定を受け当日の聴講者は160名を超える参加をいただき盛況に終了することができました。

本年度の発表会もYOUTUBEで公開する予定です。また，アンケートから注目度が高かった発表は，「4.5中小口径管路からの下水熱利用技術」「5.1 AI技術を応用したGPRデータによる空洞判定の試み」でした。

■「地下管渠工事の社会的費用の算定に関する研究」を土木学会にて発表

昨春当協会が制定しました「地下管渠工事の社会的費用―算定の手引き―（案）」をまとめたソーシャルコスト検討委員会のメンバーにより標記の内容で平成29年度土木学会全国大会・72回年次学術講演会（九州大学9月11日（月））共通セッション【CS4：地下空間の多角的利用】の中で下記の3名により発表しました。

①外部費用の算定項目の検討
宮武昌志氏（アイレック技建㈱）

②外部費用の試算と工事費の比較評価の事例
松永浩氏（東京電力パワーグリッド㈱）

③社会的費用による工事費の比較に関する一考察
松本亨氏（北九州市立大学）

発表後の質問では，外部費用の負担を誰が負担すべきなのか，また開削・非開削の工法選択にどう反映できるのかなどの質問がありました。

■ 非開削技術講習会

当協会が発行した「非開削地下探査技術適用の手引き（案）」及び「地下管渠工事の社会的費用―算定の手引き―（案）」の普及と今後工事の増加が予想される「管路更生工法の概要」の三つのテーマで東京と大阪で講習会を実施しました。

東京は9月21日（木）午後発明会館地下ホールにて開催し，約70名の方々の参加をいただきました。また，大阪は10月20日（金）午後CIVI北梅田研修センターにて開催し，約50名の参加者の方々に参加いただきました。両講習会とも継続学習制度のCPD（土木学会），CPDS（全国施工管理技士会連合会）の認定を受けました。

本講習会の「管路更生工法の概要」では，㈳日本下水道管路管理業協会様，㈳日本管路更生工法品質確保協会様からの講師の派遣のご協力をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

アンケートでは，当協会が制定した「地下探査技術」と「社会的費用の算定」の知名度は約50％と低いことが分かりました。また，今後このような講習会は社内として技術者を育成の観点から継続して実施してほしいという要望が多くありました。

本年度は2月に広島市，福岡市で開催予定です。

■ ㈳日本水道協会埼玉県支部南地区協議会研修会

10月20日（金）午前㈳日本水道協会川口研修所において「道路を掘らない技術・非開削工法について」を開催しました。本件は，埼玉県支部南地区協議会の事務局より「非開削技術の紹介」をテーマに研修会開催の要請があり，「推進工法」「HDD（水平ドリル）工法」「管路更生工法」について説明しました。

県南地区から約30名の参加者があり，質問時間を延長するなど活発な研修会となりました。